

自立活動「いざという時のネット 110, 119 番」学習指導略案

1 対象

中学部

2 指導の形態

通常教室、一斉授業 大型テレビを使用

3 指導の目的

交通事故や急患などで 110 番や 119 番を呼ぶ必要がある時のために、ネット 110 番、119 番について知る。

4 指導にあたって

- ・最近、中高生の自転車事故の増加について意識を持たせる。
- ・聞こえない、話せない人たちのためにいろいろ ICT が工夫されていることに気づかせる。
- ・いざという時のために、普段からどう行動したらよいかを考えておくことを促す。

5 本時の展開

過程	学習活動	指導・支援内容（留意事項及び配慮事項）	評価の観点
導入 10 分	1 最近の中高生の自転車事故の統計資料を見て、気づいたことを周りの友達と話してみよう。	○自転車事故は、被害者だけでなく、加害者の場合もあることを伝える。 ○自転車保険が多くの県で義務化されてきていることも併せて説明する。	
展開 25 分	2 聞こえない人が、事故に遭ったときに、どんなことに困るか考えてみよう。 ・連絡先はどうやって伝えるかか。 ・家の人、学校にはどうやって伝えるか。 ・警察や救急車にはどうやって伝えるか。 それぞれについて、連絡の方法を考えてみよう。	○3 人ずつの班で話し合いながら、いろんな考えを出して、A3 用紙にマジックで書いて、黒板に貼り、それぞれの班ごとに発表する。 (支援) ○分からない場合は、これまで、学習してきた交通安全教室で学んだことを思い出すように促す。 ○筆談をスムーズに行うために必要なことは何か考えることを促す。 ○ケガがひどくて、書いたり話したりできない場合はどうするか考えることも促す。	○積極的に読んで考えようとしているか。 【関心意欲】
	3 ネット 110 番、119 番の動画を見る。 (110 番 1 作、119 番 1 作)	○聴覚障がい者用に作成してあるので、手話や字幕が入っているので使いやすいが、説明中の用語の説明が必要。 ○以前は、メール 110 番、メール 119 番だったが、最近では、アプリ化されることで、名前や障がいについて（聴覚障がい者であること）、電話番号やメルアドなどの情報を登録しておくだけで、つながれば何も話さなくても、「誰が、どこで」困っているかが通知される仕組みになっていることを押さえる。	○スマホなどの効果的な利用法について理解しているか。 【知識・理解】
	4 位置情報の効果的な使い方を知る。	○「スマホ安全教室」の時には、写真に位置情報が付随することの怖さを学んだが、ここでは、位置情報も警察	

まとめ 15分	5 自分のスマホを使って、アプリをダウンロードして、登録をしよう。 6 次の時間は、災害時の家族との連絡の取り方について学習することを学ぶ。	や消防署に送られることで、何も話せなくてもつながるだけ、送信されるだけで、位置情報も届くことを知る。 ○自分のスマホでアプリのダウンロードと登録をする。 ○スマホがない場合は、練習用スマホで疑似体験をする。 ○東日本大震災、熊本地震などの経験から、いろいろなICT活用の工夫がなされたことを知る。家族で、自分の家での工夫を聞いておくことを宿題とする。	
------------	--	--	--

6 参考・引用文献または Web サイト

- ・NET119 緊急通報システム <https://www.youtube.com/watch?v=PYb4p2wqP00>
- ・豊田市消防本部 NET119 のお知らせ https://www.youtube.com/watch?v=tuOKY5m3O_4
- ・やまがた 110 ネットワーク（情報発信メール） <https://www.youtube.com/watch?v=F0gqbPRlqAY>
- ・110 番アプリ（神奈川県聴覚障害者福祉センター） <https://www.youtube.com/watch?v=242EGF1DJXo>
- ・追加情報 110 番アプリ（神奈川県聴覚障害者福祉センター） <https://www.youtube.com/watch?v=wNxoZqYA36w>
- ・長野県聴覚障がい者情報センター https://www.youtube.com/watch?v=eJELw_DAL2M

作成：山田京子（熊本県立熊本聾学校）、2019 年

編集：ろう者学教育コンテンツ開発取組担当